

巻 頭 言

京都市立病院紀要平成 29 年第 37 巻 2 号の発刊にあたり、巻頭言の筆を執らせて頂きます。今回発刊されます市立病院紀要には、原著、総説、症例報告なども掲載されておりますが、主な内容としては、当院が毎年 2 回定期開催しております地域医療フォーラムの講演内容が掲載されています。過去に私が担当した巻頭言には、地域医療フォーラム開催の裏話を掲載したものがありましたが、今回もフォーラム開催に関係した話題を書かせて頂きます。

平成 28 年 9 月 3 日に開催されました第 24 回地域医療フォーラムでは、「災害時における生活支援～生命と生活をまもる～」をメインテーマに、「災害時における中長期的な健康・生活支援」と題して、佛敎大学保健医療技術学部看護学科の松岡千代教授に特別講演を頂きました。実は、大規模自然災害をテーマにした地域医療フォーラムは以前にも開催いたしました。平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災を受けて、「大災害発生時にどう対処するか」をメインテーマに、同年 9 月 10 日に「大災害が起こった時をどう考える！病院の事業継続の視点から」と題して、京都大学防災研究所巨大災害研究センターの林春男教授に特別講演をお願いしました。内容は、今まさに話題になっております、災害発生直後の事業継続計画、いわゆる BCP (business continuity planning) を先取りする講演でした。当時の私はまだ意識がそこまで深くなく、やや難解な講演でしたが、今になって思えば、非常に重要なことを教えて頂いたと思います。一般に災害支援といえますと、劇的な変化を伴う発生直後の支援体制にスポットが当たりがちですが、今回の第 24 回フォーラムは、平成 28 年 4 月 14 日・15 日に発生した熊本地震を受けて、前述しましたように、災害発生直後を何とか乗り切った後の中長期的な対応をテーマに、急性期を脱した被災者の健康や生活をどのようにして支援していくかに焦点を当てました。当院からは、熊本地震における当院の DMAT 活動のほかに、避難所における保健師の役割、エコノミークラス症候群の発生予防、食事・栄養の支援、福祉相談など、いわゆる少し状況が落ち着いてきた段階で発生する課題にどう対処するかを中心に発表し、議論を深めて頂きました。東日本大震災の経験がまだ消えやらぬ時期に起こった熊本地震の経験を重ねることにより、その対応から学んだ被災者に対する支援を考える良い機会になりました。さらに、そう遠くない未来に発生すると予測されている東海・東南海・南海大地震に備える意味でも、地震大国日本にある災害拠点病院としての役割を果たす際に、非常に有意義な内容だったと思います。

次に、平成 29 年 2 月 11 日に開催しました第 25 回地域医療フォーラムでは、現在我が国において増加しつつある、「若年性乳がんについて」と題して、関西医科大学乳癌外科の杉江知治教授に特別講演をお願いしました。ちょうど社会的にも話題になっていたテーマだったこともあり、女性の参加者が多く、関心の高さが印象的でした。また、当院からは、当院で取り組みを始めている、働きながらかん治療を受けられる支援事業を紹介し、多くの参加者からご質問やご意見を頂きました。その後も、私個人あてに、当院で始めた休日の外来化学療法や、夕方の放射線治療に関するご質問を頂き、当院の取り組みが社会の先進的なものであることを裏付けたと思っています。国が定めます、「第 3 期がん対策推進基本計画」においても、「がんとの共生:がん患者の就労支援」が大きな柱の一つになっています。毎年恒例となりました休日開院による外来化学療法、放射線治療、また平成 29 年 8 月から始めました乳癌ドックや、乳癌外来の診療時間を夕方まで延長して、仕事帰りに診察や治療を受けられる環境づくりなど、がん患者さんが安心して働きながら治療ができるような支援を、今後とも積極的に行っていこうと考えています。

以上、最近の 2 回の地域医療フォーラムの紹介に私の思いを重ねて、巻頭言とさせて頂きました。

平成 29 年 12 月吉日

京都市立病院機構京都市立病院長 森 本 泰 介